

社会科学習指導案

平成18年10月27日（金曜日） 第5校時（13：30～14：20）

みどり市立大間々東中学校 3年2組 体育館1階 指導者 T1 蛭間 則彦
T2 高畑 展仁

授業の視点

福祉や教育、交通など多様な面から新市のキャッチコピーを考え、市長に提言することは、住民参加のまちづくりの意識を高めるうえで有効であったか。

I 題材 まちづくりを調べよう（単元 地方の政治と自治）

1 考察

(1) 教材観

本題材は学習指導要領の内容(3)「現代の民主政治とこれからの社会」イ「民主政治と政治参加」の「地方公共団体の政治の仕組み」にあたる。

本題材「地方の政治と自治」は、生徒にとっては身近でありながら、日頃深く考える機会が少ない。そこで、この単元では、地方自治の学習を深めていき、そのまとめとして、身近な地域のまちづくりについて自分たちで調べ発表し、意見交換するという調査・体験学習を取り入れることにより、生徒が地域社会について多面的・多角的に思考する機会を与えられると考える。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

大間々東中学校の位置する大間々町は平成18年3月27日をもって市町村合併により、笠懸町、勢多郡東村と合併し、「みどり市」になった。生徒の実生活を考えると学校名が変わるくらいでありあまり影響はないように思えるが、様々な面での変化があったのは事実である。普段なかなか考えることのない合併による生活の中の様々な変化について、家族や地域の人、市役所の職員等への調査活動を通して考えることは、生徒の住民参加のまちづくりに対する意識を高められるものと考ええる。その中で代表民主制や議会の仕組み等の学習ができれば、より生徒の理解も深まることと考える。

【社会的な思考・判断】

友達の考え方はもちろん、家族や地域の人、市役所の職員等の考えを実際に聞きながら、自分としての「これからのみどり市のあり方」を考える体験は、民主政治の意義を考えるだけでなく、多面的・多角的に社会的事象をとらえ、社会的な見方・考え方を育み、社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を培うことができるものと考ええる。

【資料活用の技能・表現】

みどり市への合併やこれからのみどり市のあり方を調べるためには、家族や地域の人々、市役所の職員等へのヒヤリング調査や文献資料、webページの検索等、多面的・多角的に資料を集め、それを分析、比較、関連づけ、統合する活動が必要となる。この活動を通して、生徒は社会的な見方・考え方を育むことができるものと考ええる。

【社会的事象についての知識・理解】

地方自治の基本的な考え方については、住民自治を基本とする地方自治の考え方について理解させることを意味している。また、地方公共団体の政治の仕組みについては、地方公共団体の政治についても、代表民主制の仕組みが取り入れられ、住民の代表として選出された執行機関の最高責任者である首長と、同じく住民の代表として選出された議員によって構成される議会の2つの機関について理解させることを意味してい

る。これらの学習内容を、身近な地域のまちづくりについて考える体験を取り入れながら学習させることにより、さらに深く理解させることができるものとする。

(2) 研究主題とのかかわり

関ブロ群馬大会の研究主題「確かな学力を育てる社会科教育の展開」－基礎・基本を確実に身に付け、社会的な見方や考え方を育む授業の創造－をふまえ、公民的分野では研究主題を「身近な地域の調査・体験活動を通して、幅広く社会的事象をとらえて考察する力を育てる指導の工夫」と設定した。

社会科における基礎・基本とは課題解決的な学習を行う中で、社会的事象の特色や意味を明らかにするために、自ら課題を見だし、自ら追究し、よりよく解決しようとする際に必要な知識・技能・学び方である。

◇本題材における基礎・基本とは

- ・自ら課題を見だし解決していこうとする「意欲」
- ・仮説を立て検証方法を考えながら、必要な資料は何かを考える「思考力・判断力」
- ・集めた資料をもとに分かりやすくまとめていく「表現力」
- ・地方自治についての基本的な考え方や地方自治の仕組み、役割についての「知識」

などである。

社会的な見方や考え方を育むことは、多面的・多角的に社会的事象をとらえ、その中で生じた諸課題を基に課題を設定し、多面的・多角的な方法で追究し、解決することであると考える。社会的事象を多面的にとらえるということは一つの社会的事象を様々な角度から考えることを意味する。また、多角的にとらえるということは、ある社会的事象を見る側を変えたり、見る角度を変えたりすることで様々な立場からの考え方をとらえることを意味している。

◇本題材における社会的な見方や考え方とは

- ・合併による変化を他の都市の合併と比較したり、メリット、デメリットとして考えたりすること
- ・合併による変化をお年寄り、子ども、商店街の人々など様々な立場から考えること

と考える。

(3) 教材の系統

小学校 6年

(2) 我が国の政治の働き

- ・国民生活には、地方公共団体や国の政治の働きが反映していること
- ・日本国憲法は、国家の理想、天皇の地位、国民としての権利および義務などの国家や国民生活の基本を定めていること



中学校 3年

(1) 現代社会と私たちの生活

(2) 国民生活と経済

(3) 現代の民主政治とこれからの社会

- ・人間の尊重と日本国憲法の基本原則
- ・民主政治と政治参加
- ・世界平和と人類の福祉の増大

(4) 生徒の実態

前述の研究テーマに関わる「基礎・基本」という面で生徒の実態を考えてみる。これまで地理や歴史、公民の各分野の学習で、個人やグループなど多様な学習形態で、自ら課題を設定し、仮説を立て、調べるという学習を行ってきた。「関心・意欲」について、特に低位の生徒については「自ら課題を設定し、…」という活動がかなり難しかった。「思考力・判断力」については、必要な資料についてあらかじめ教師側で見つけておいて与えないと探せない生徒もいた。「表現力」については経験を増すにつれ徐々にわかりやすく表現できるようになってきた。「知識・理解」については、特に、女子は真剣に取り組み、基礎的な力も身に付いている。男子は繰り返し指導を行ってきたが身に付いてない生徒が多い。

次に、本単元を始めるに当たり、生徒の実態を把握するために事前アンケート（1名欠席、計29名）を行った結果をまとめてみた。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

○「合併により誕生した新市「みどり市」の市長は誰か？」という質問には23名の生徒が正確に市長を答えることができた。しかし、次の質問で新市「みどり市」の人口を聞いてみたところ53000人が正解であるが、わからないと答えたのが23名、残りの6名のうち5万人に近い数字を出していたのが3名、残りは全く見当外れの回答だった。

【社会的な思考・判断】

○「今回の合併について自分で思うことを自由に書いてください」と言う質問には、「笠懸でなく桐生と合併した方がよかったと思う」と考える生徒が6名、「桐生と合併しなくてよかった」が数名、また、「新市の中心は笠懸でなく3町村の中心に位置する大間々町に置くべきだ」というような意見が2～3名、そのほかには「住民投票で桐生との合併派が多数を占めたのになぜ住民の意見のを無視したのか」「名前が変だ」「あかがね市のほうがよかった」「合併により県大会の出場枠が増えたのでよかったと思う」等の意見があった。

【資料活用の技能・表現】

○今回の合併に関わる市町村を県内の白地図で色塗りさせてみたところ、正確に位置が把握できている生徒は5名で、残りの生徒は位置が正確に把握できていない。

【社会的事象についての知識・理解】

○みどり市は何町と何町が合併した市なのか知っていますか？の質問には29名中、17名が知っていると答えたが、そのうち、3町村を正確に答えられたのは8名だった。

2 目 標

地方公共団体の政治の仕組みや働きについて理解するとともに、住民参加による地方自治への関心・意欲を高める。

3 評価規準（A…十分満足できる状況 B…おおむね満足できる状況）

- A 身近な地域の特色ある政治について進んで調べ、地域住民の一人としてそのあり方を考えようとしている。
- B 身近な地域の特色ある政治について進んで調べ、意欲的に追究しようとしている。

（社会的事象への関心・意欲・態度）

- A 実際に自分が住んでいる町の地方自治について多面的・多角的に考えている。
- B 実際に自分が住んでいる町の地方自治について考えている。

（社会的な思考・判断）

- A 実際に自分が住んでいるまちの「まちづくり」について調べ、その課題を項目ごとに分類、整理しながら、分かりやすく表現している。

B 実際に自分が住んでいるまちの「まちづくり」について調べ、その課題を整理しまとめている。

(資料活用の技能・表現)

A 地方公共団体の政治のしくみや働きについて理解するとともに、その課題を理解している。

B 地方公共団体の政治のしくみや働きについて理解するとともに、その課題を理解し、住民自治を基本とする地方自治の考え方を理解している。

(社会的事象についての知識・理解)

4 指導方針

○「市長へ実際にキャッチコピーを提案しよう」と本題材の導入で生徒に伝えたり、ゲストティーチャーとして市長を招き、実際に話を聞いたりすることにより、まちづくりへの住民参加の意欲を育み、社会的事象への生徒の感性を高める。

○地理的分野や歴史的分野で培われた能力や態度を基に、生徒の生活に関連する社会的事象を取り上げ、調査や討論など多様な学習形態を工夫したり、「社会科新聞ノート」を活用したりするなど作業的・体験的な学習を充実させる。

○多面的・多角的な思考ができるように家族や地域の人々、市役所の職員等できるだけいろいろな立場の人からヒヤリング調査をしたり、web検索や文献調査等で情報を集めたりさせる。

○KJ法によるブレインストーミングを用い、合併について多面的・多角的に考えさせ、多様な意見が出るようにする。

○T1とT2の役割を明確にし、連携を図りながら、特に低位の生徒に対する個別指導を考える。

○それぞれの段階において、常に他の都市との比較を意識させ、みどり市の特徴、今後のあり方等を考えさせるようにする。

○班の意見をもとにキャッチコピーを考える場面では、単に班ごとに意見を発表しただけにならないよう、具体的に討論できるようなテーマを提示し、よりよいキャッチコピーを練り上げられるようにする。

5 学習計画

時間	主な学習活動	支援及び留意点	評価項目と方法
1	私たちと地方自治 ○地方自治とはなにか、地方公共団体のしくみについて考える。 ○みどり市の広報誌を参考に地方自治の意味と役割について考える。	○広報誌「みどり」を活用させ、新市の組織や新しい動きについて理解できるよう、助言する。 ○住民の選挙によって、首長と議会が形成され、両者が抑制と均衡を保っていることを理解させる。	○地方自治のしくみを、地方議会と首長の役割とを中心に理解している。 (知識・理解) 【ワークシート】
2	○条例を調べることで地方公共団体が抱える課題を考える。	○条例の名称から、その目的や地方公共団体の持つ悩みを予想させ、条例の役割を考えさせる。	
3	地方分権と住民参加 ○みどり市の年間予算案をグラフにまとめる。 ○地方分権の動き、住民参加の方法について理解する。 ○住民の権利についてまとめる。	○広報誌、新聞記事、webページなどを活用していく中でうまく見つけることができない生徒に対して支援する。 ○直接請求権や住民投票では、これに伴う責任がついていることや地域住民として積極的に関わっていくことの大切さを伝える。	○住民の政治参加の方法や重要性について調べ、まとめている。 (技能・表現) 【ワークシート】

4	市町村合併と地域づくり ○地域づくりに関心を持ち、進んで地域の活動に参加しようとする意欲を持つ。	○合併によるメリットやデメリットについて一般的な考え方を理解できるよう支援する。 ○他の都市の合併事例との比較をしながら、多面的・多角的に今回の合併をとらえさせる。	○身近な「地域づくり」に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 (関心・意欲・態度) 【観察】
5	まちづくりを調べよう ○合併により変化したまちの様子を調べ、まとめる。	○福祉、財政、教育等、様々な観点から合併について多面的に考えられるようにする。 ○T1、T2で手分けをして各班の状況に応じて調べ学習の手助けをする。	○身近なまちづくりについて具体的に調査し、まとめている。 (技能・表現) 【レポート】
6	○市役所の方に来てもらって新市についてインタビューをする。	○家族や地域の人々、市役所の職員等さまざまな立場の人の考えを取り入れられるようにする。	
7	○各自で調べてみてわかったことをもとに、みどり市の特徴を班ごとに付箋紙に記入していく。(人口、面積、税、ゴミ、教育、交通、商業、観光…) ○班ごとにみどり市のキャッチコピーを考える。	○見当はずれと思われるものでもいいから、なるべくたくさん考えさせる。 ○行き詰まっている班に声をかけ、必要に応じて資料を渡し、特徴を考えさせる。 ○福祉、財政、教育等、様々な観点からキャッチコピーを考えさせる。	○班で相談しながら多面的・多角的に新市にふさわしいキャッチコピーを考えている。 (思考・判断) 【観察】
8 【本時】	○考えたキャッチコピーを発表し、これからのみどり市について考える。 ○記入してある特徴からどんな市になって欲しいか考える。	○絶対に入りたいキーワードは何かを相談させる。 ○最終的にはどんな市になって欲しいか考えさせる。	○今後のみどり市の在り方についていろいろな人の意見を参考に自分なりに考えている。 (思考・判断) 【ワークシート】

Ⅱ 本時の学習指導

- 1 目 標：前時までに考えたキャッチコピーを、意見交換をしながらよりよいものにしていく中で、今後のみどり市の在り方について考える。
- 2 準 備：前回までの資料、レポート等、教科書、ノート、ワークシート、桐生市・みどり市地形図
- 3 展 開

ねらい(時間)	生徒の活動	支援及び留意点・評価項目(方法)
1 前時までの活動を思い出させ、本時の流れをつかませる。(5分)	「みどり市のキャッチコピー」を更に良いものにして市長に提案しよう。	
2 班ごとに考えたキャッチコピーを黒板に張り出させ、自分たちの班の思いをアピールさせる。(5分)	○自分たちの班の思いをわかりやすく発表する。	○それぞれの班のいいところを考えさせ、ワークシートに記入するよう声がけをする。(T1、T2)
3 班ごとに、自分たちが考えたキャッチコピーの中の言葉で絶対に入りたいキーワードを考え、印をつけさせ、さらにいいものにさせる。(15分)	○班のメンバーで考えた様々なキーワードから絶対に入りたいものは何か相談する。 ○絶対に入りたいキーワードは何かをはっきりさせ、印を付ける。 ○前回考えたキャッチコピーをさらにいいものにする。	○全体の進み具合を確かめながら行き詰まっている班に声をかけ、必要に応じて資料を渡し、特徴を考えさせる。(T1) ○他の班でもいいと思う言葉があれば使用していいことを伝える。(T1) ○市役所の方と一緒に行き詰まっている班に声をかけ、必要に応じて資料を渡し、特徴を考えさせる。(T2) ○それぞれのキーワードを入りたい理由を考えさせる。(T1、T2)
4 班長が班の話し合いの内容を発表し、絶対に入りたいキーワードが異なっていた場合には全体で考えさせる。(15分)	○班ごとに絶対入りたいキーワードが異なっていた場合、討論する。	○様々な立場からの考えが出せるよう声がけをする。(T1、T2) (行政の立場から、お年寄りの立場から、子どもの立場から、育児の立場から、親の立場から等) ○今までの学習の総まとめとして、他の都市のまちづくりの例等を思い出し、深く考えられるようにさせる。(T1、T2)
5 これからのみどり市のあり方について各自考えワークシートに記入させる。(5分)	○最終的にはどんな市になって欲しいかを考える。	【思】 今後のみどり市の在り方についていろいろな人の意見を参考に自分なりに考えている。〔ワークシート〕
6 市役所の方に話をしてもらい、これからのみどり市について考えさせる。(5分)	○市長の話を聞き、住民参加のまちづくりについて関心を高める。	○話の中で生徒に疑問点があるようであれば質問させる。(T1)